

「高校生活まなび*サポート(まなサポ)」とは?

経済的・生活上困難な状況にある世帯の子どもが、高校などへの入学、高校就学時の生活、まなびを経済的不安なく過ごし、自分らしい進路選択ができることを支えるための継続型給付金事業です。2022年12月から、宮城県石巻市に在住する中学校3年生から高校生世代を対象に行っています。給付決定から高校卒業時まで月額2万円、中学校・高校の卒業時には一時金を給付します。2022年度に36人、2023年度には21人が利用を開始し、2024年10月時点で、卒業生を除

いた40人が利用しています。2024年3月に卒業した子どもからは、「**お金の心配なく学校を無事に卒業できた**」といった声が寄せられました。「まなサポ」では、給付金を提供するほか、インタビューやアンケートを実施し、継続的なサポートを行っています。利用している保護者からは、「**悩みを聞いてもらい、肩の荷が軽くなった**」、「**伴走してもらっている気持ちになる**」などの声があり、「まなサポ」が利用者のこころの支えにつながっている様子もうかがえます。

*学習や就学に限らず、課外活動、スポーツ・文化・芸術活動など広くとらえるため、「学び」ではなく「まなび」としています。

「高校生活まなびサポート」実施の経緯

日本では、経済協力開発機構(OECD)加盟諸国に比べ、教育に占める公的支出の割合が低く、子どもや子育て世帯に対する社会保障が十分ではない状況があります。2021年にセーブ・ザ・チルドレンが石巻市を含む東北地域で実施した調査では、32.2%が「経済的な

理由により高校就学を続けられない可能性がある」と回答しました。そこで、主に中高生世代がいる子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもたちが安心してまなび、自分らしい進路をかなえられるよう、継続型給付金事業を開始しました。



担当者の声

ある子どもから、「まなサポ」があって、小学生の時から続けている習字を高校卒業まで継続できたと話がありました。子どもには、まなんだり、こころや体を十分に成長させる権利があります。子どもが経済的不安なく過ごし、やりたいと思ったことができるよう、これからも応援し続けていきたいと思ひます。



公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
03-6859-0398 japan.soap@savethechildren.org



高校生活まなびサポート通信Vol.2 2024年12月発行

子どもたちの 今と未来を 支えるために

~セーブ・ザ・チルドレン継続型給付金利用者の声~

修学旅行用の
パジャマや
洗面用具、靴を
買いました。

大学の入学費用に使いました。
たくさん勉強して、自分が
やりたいことを将来、
実現したいです。

筆記用具や
問題集に
使っています。

部活の遠征費に
使いました。
大会で活躍できて、
嬉しかったです。

※給付金の使い道について子どもたちの声を抜粋・編集

「高校生活まなびサポート(まなサポ)」は、経済的な状況に左右されず、子どもたちがまなぶことを応援する継続型の給付金事業です。通信を通して、自分らしく歩みを進める子どもたちの今を伝えます(年1回発行)。

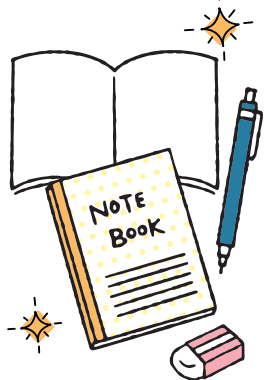


まなサポが支える子どもたちのストーリー

※()内は、現在の学年、家族の人数、子どもについて。子どもと保護者にインタビューやアンケート内容から構成しています。個人が特定されないよう属性などを変更している場合があります。

Aさん

高校1年生
家族：3人
将来の夢：学芸員



好きな勉強に集中して、高校生活を前向きに

Aさんは、勉強をすることが好きですが、中学生の時は病気や学校での人間関係が理由で、登校することに不安がありました。お母さんは、学校に行くAさんの付き添いをすることも多く、仕事が少ない中、物価高騰の影響もあり、電気代やガス代を支払えないことがあるほど、生活はひっ迫していました。お父さんは、Bさんの高校進学後の費用負担が気がかりで、「まなサポ」を申請しました。「まなサポ」を利用して、高校

少しホッとしました。高校に入学してからのAさんは、仲が良い友だちができて、「楽しく学校に行っています」と話します。これからは、アルバイトにも挑戦したいと考えています。「まなサポ」は筆記用具や問題集に使い、成績も学年で上位をキープしています。そのようなAさんの様子を見て、お母さんは、「前と様子が変わった。明るく、行動的になった」と話します。

Bさん

高校1年生
家族：3人
好きな動物：イルカ



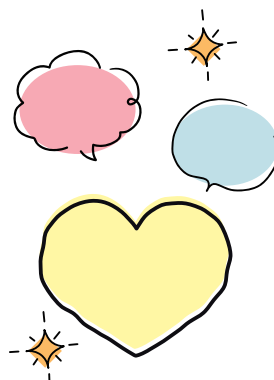
経済的な不安なく学校生活を送り、まなびに意欲的に

Bさんは小学生の時にお母さんを病気で亡くし、お父さんが一人で子育てをしていますが、お父さんも現在、病気の治療をしています。お父さんは仕事が十分にできない中、物価高騰の影響もあり、電気代やガス代を支払えないことがあるほど、生活はひっ迫していました。お父さんは、Bさんの高校進学後の費用負担が気がかりで、「まなサポ」を申請しました。「まなサポ」を利用して、高校

受験前に模試を受けることができたというBさん。無事高校にも合格し、「まなサポ」は、お昼のお弁当の具材や学校までの交通費、参考書に利用しています。数学が好きで、テストの結果も良く、今は、「大学に行ったら勉強をしたい」という目標ができました。勉強に一生懸命で、休まず学校に行っているBさんのことをお父さんは誇らしく感じています。

Cさん

高校2年生
家族：3人
好きなこと：TikTok



経済的不安が和らぎ、素直に自分の気持ちを表現

Cさんは学校で配布されたプリントで「まなサポ」を知り、申請しました。Cさんはこれまで学校で購入が必要なもの期限ギリギリに用意することが多かったのですが、「これからは給付金を使って余裕をもって揃えられる」と安心した気持ちになりました。お母さんは、「まなサポ」について「毎月定期代でお金がかかるので月々の給付は固定費に充てやすい、毎月の出費に応じて使い方を決められ

る」と話します。これまでCさんは家計の状況を気にして、自分が欲しいものを伝えることをためらっていましたが、今は参考書など、欲しいものをお母さんに伝えていきます。自分が欲しいものを素直に伝えるCさんの様子にお母さんも安堵しています。Cさんは友だちと学校行事を楽しんでおり今度友だちを自宅に招くことを計画しています。

Dさん

高校3年生
家族：4人
好きなこと：アニメやドラマ鑑賞



家族の介護をしながら、自分の将来の目標に向けて

Dさんは学校から帰った後、介護が必要なおじいさんとおじいさんのきょうだいのお世話をしています。ご飯やお風呂の用意、時には話し相手になることもあり、なかなか自分の時間が取れないことが悩みです。そんな中でも、検定の受験や資格取得に取り組んでいても考えています。「まなサポ」は新聞記事を見たお父さんが教えてくれ、申請しました。お父さんは、「家計が厳し

く、子どもに十分な教育を受けさせてあげられない」と不安でしたが、「まなサポ」の利用が決まり、胸を撫で下ろしました。Dさんは「まなサポ」を資格試験代や修学旅行の積立に充てています。お父さんは、「まなサポ」担当者とのやり取りを通じて、おじいさんたちの介護について支援機関に相談し、今は介護サービスを利用しています。Dさんやお父さんの介護の負担も少し減り、地域で頼れる先も広がりました。